

道
守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.43 秋号



巻頭インタビュー

安部 勝也 (九州地方整備局道路部長)
「連携で地域に活力を」

みちづくし in 阿蘇 2022

観光阿蘇 見事に復活! ~活火山、草原風景~
阿蘇からのチャレンジ 復興九州
~パワフルな風を届けよう~

現地体験学習会概要

九州風景街道 令和4年度 ブロック意見交換会
更なる発展に向けて

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄り、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組み人々が増えていく。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渇きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、新しい道に一歩踏み出そう。



阿蘇中岳噴火

CONTENTS

- 01 巻頭インタビュー
安部 勝也（九州地方整備局道路部長）
- みちづくし in 阿蘇 2022
- 02 観光阿蘇 見事に復活！～活火山、草原風景～
- 04 阿蘇からのチャレンジ 復興九州
～パワフルな風を届けよう～
- フロアミーティング
- 06 災害から復興へ 道守たちの支援活動
- 08 これからの道守活動 ―災害への備えと地域連携―
- 10 現地体験学習会概要
- 11 私たちの道守活動
- 14 九州風景街道 令和4年度 ブロック意見交換会
更なる発展に向けて
- 16 わたしの好きな道
虹の松原―クロマツのトンネル
木村 剛
- 17 道守たちのトピックス・編集後記

表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭
インタビュー

KATSUYA ABE

安部勝也

九州地方整備局
道路部長

連携で

地域に活力を!!

——今年10月28日・29日に阿蘇市でみちづくしを開催します。阿蘇市の皆様には、阿蘇復興という様々な意味で、道のありがたさを理解していただき、受けてくださいました。テーマは「復興九州」です。

安部 阿蘇にはもちろん、九州地方整備局の職員は強い想い入れがあります。5年経って復興事務所も閉じてしまいましたが、今でもいろんな方が復興した阿蘇を見たいと言われます。新生 阿蘇という感じで阿蘇で出来る大会を楽しみにしています。

——部長は、福岡国道事務所長の時に福岡会議の皆さんの活動にご参加いただきました。

安部 道守活動は、本当に楽しかったですね。活動するときは暑いとき寒いときが多かったですけど。皆さんとの交流で、ホッとするというか、開放された気持ち

になれるし、柳川はじめ、名島橋の清掃、久留米や糸島、浮羽のほうでコスモスとか、各地の活動に参加させていただきましけど、氣さくに友達感覚でお話ができて会話が弾み、その後の懇親会や食事会がとてもよかったです。

——九州で自転車活用が進められています。有明海沿岸や佐賀は平坦な地だからサイクリングには最適な場所です。

安部 自転車が歩道を利用しているのは、世界的には垂流ですが、今は転換期で自転車が行ける青いラインや自転車道の整備を進めています。サイクリングの大会があれば、リピーターが増えて、道をきれいにするなど、参加者は優良な観光客と言われるています。その土地の魅力も発信できるので、サイクルツーリズムが今後の発信ツールになると思います。

最近ではサイクルツーリズムを通して、九州の魅力的な観光資源を楽しんでいただけるよう、官民で構成された各県のサイクルツーリズム推進協議会と連携し、走行環境整備の取り組みを行っています。

現在、九州にはサイクルツーリズムのモデルルートが国、県、市

町村管理を合わせ、31ルート約3800kmあり、各協議会と共に順次整備を進めていきます。

——これからの「美しい道づくり」や道守活動について、今後はどのような施策が展開されるのでしょうか。

安部 魅力的な道路空間を創出する施策の一つとして、歩行者利便増進道路（通称・ほこみち）という施策を展開しています。ほこみちとは、今まで「通行」という目的が主であった道路を「にぎわい空間」として柔軟に利用できるようにする制度です。この制度によって、道路空間利活用のための道路占用許可が柔軟に認められたり、道路清掃の義務により地域の美化に繋がりが、人が行き交うにぎわいと活気に溢れた道づくりに寄与できるようにになります。

——道守の他に道を舞台とした取り組みとして、風景街道、道の駅の活動がありますが、道守活動とともに「3つの輪」を形成し、展開しようとしています。

安部 連携することは大事であると考えています。「道の駅」は集客、「風景街道・道守」は地域資源などの特長を生かし、お互いが連携・協働し、道の駅での地域情報

を発信し多くの人が観光地や名所に足を伸ばして頂けるよう、地域活性化を図る必要があると考えています。

——台風や地震などでの対策や心構えなどお聞かせください。また、南海トラフの対応について。

安部 平成28年に九州道路啓開計画が策定され、九州では南海トラフ地震に対し九州東進作戦を、具体的には人命救助の72時間の壁を意識した計画に基づき、広域移動ルートの迂回路設定、広域移動ルートの道路啓開、被災地内ルートへの道路啓開を順に進めています。

——災害時の避難、あるいは救援基地として「道の駅」や「SA、PA」の活用が進んでいます。災害に強い高速道路と一般道との連携、ネットワークがもっと必要と思われます。

安部 昨年度、「防災道の駅」として全国で39駅、九州では6駅が指定されました。

また、九州を南北、東西の軸でつなぐクロスネットワークからリングで新たに連携するリングネットワークをイメージに九州内の主要都市の交通拠点を連絡する広域道路ネットワークを策定しました。



インタビュー風景

プロフィール

あべ・かつや 宮崎県出身。平成7年4月建設省入省。九州地方整備局福岡国道事務所長、道路局道路交通管理課ITSシステム推進室長、和歌山県県土整備部長等を歴任後、令和4年4月現職。

インタビューアー

福岡会議 事務局長 山田三代子さん
佐賀会議 代表世話人 三原ユキ江さん



みちづくし in 阿蘇 2022 開催地 観光阿蘇 見事に復活！ ～活火山、草原風景～

阿蘇市は、阿蘇五岳を中心とする世界最大級のカルデラや広大な草原を有し、比較的平坦地の多い阿蘇谷と、それを取り巻く阿蘇外輪地域で形成されています。阿蘇カルデラの中央にそびえる阿蘇山（阿蘇五岳）は、阿蘇市のシンボルである中岳火口や、火口周辺には牧歌的な景勝地である草千里ヶ浜など美しい自然景観で多くの人々を魅了しています。

阿蘇市の大部分は阿蘇くじゅう国立公園内にあり、野焼きに代表される人と自然の共生によって守られてきた広大な草原や、オオルリシジミをはじめとする阿蘇特有の希少動植物など、豊富な自然と様々な地域資源に恵まれています。これらの地域資源は、世界的に高く評価され、ユネスコ世界ジオパーク及び世界農業遺産に認定されています。

カルデラ内には阿蘇中岳火口をご神体とし2000年以上の歴史を有する阿蘇神社など歴史遺産や文化伝承等も根付いており、良質で豊富な湯量を誇る内牧温泉や市街地からこんこんと溢れ出る湧水など火山地帯がもたらす観光資源も豊富に存在しています。また、阿蘇地域の草原で育った和牛「あか牛」をはじめ「たかなめし」や「だご汁」などの郷土グルメも楽しめます。

県内でも最大の観光入り込みを誇る阿蘇地域は、平成28年の熊本地震で大きく被災し鉄道や主要な国道が寸断しましたが、令和2年8月に豊肥本線全線復旧、10月には国道57号と北側復旧ルートの2つの道路が開通。熊本～阿蘇間の移動時間が最大33分短縮され、熊本市内からのアクセスが大幅に改善されました。アクセスの良さで、行程が重視され

絶景ロードを美しく 阿蘇満喫プロジェクト



ごあいさつ
阿蘇市長
佐藤 義興

九州各県の道守会員による交流会議「みちづくし in 阿蘇2022」が阿蘇市で盛大に開催されます事に、心からお祝いを申し上げます。また今回は、度重なる災害を経験した阿蘇地域の復興をテーマに加えての会とあって、皆様の多大なるご誠意に心から感謝申し上げます。会場となった内牧温泉は、阿蘇五岳を正面に涅槃像が美しく見えるのが特徴です。2日間景色や温泉も楽しみながらご参加ください。

皆様は日頃から「道」について大事にし、地域の発展に活かすという高い意識をお持ちの方々です。当地は阿蘇くじゅう国立公園内で、環境・景観保全に長年取り組んでいるところですが、沿線ではポイ捨てや雑木化などの問題がございます。ぜひ、この交流会を機に「阿蘇やまなみハイウェイ」のような九州内の絶景ロードが美しく活かせる、そういった機運向上にも繋がれば幸いです。

結びに、今回の交流会及び交流集会が皆様にとって実り多きものとなることを祈念いたしまして歓迎のあいさつと致します。



あか牛丼



たかなめし



だご汁



北側復旧ルート

一旦ゼロまで落ち込んだ修学旅行が回復し団体旅行の問合せも多くなってきました。令和5年度、阿蘇市の観光は、阿蘇山上に国立公園満喫プロジェクトの一環で、火口見学に必要な二次避難施設（休憩所）や新見学エリアを整備し、国際的観光地にふさわしい環境を整えます。

また阿蘇神社も残る楼門の工事が進み12月に完全復旧します。こうした観光素材が充実し、あか牛や高菜、乳製品、阿蘇野菜など食の分野も更なる商品開発が進む予定ですので、これからの阿蘇市の復興にも引き続き応援をお願いします。まずは、空の玄関口、来春開業の「阿蘇くまもと空港ターミナルビル」の完成に焦点を合わせて、国内外からのお客様の受入れに心を込めて接していきたいと思っています。



「復興九州へのチャレンジ」を語ろう
阿蘇大会実行委員会委員長 榑木 武

九州の中央に位置する阿蘇山は、九州の象徴。その中岳からの噴煙は、道づくし大会in阿蘇2022の烽火であり、はためくテーマは「復興九州」です。

九州では、万年前から人々が暮らし、文明・文化を発展させてきました。しかし、その途次で様々な大災害に見舞われ、絶え間ない苦闘が強いられています。

とりわけ最近、地震・津波・台風の襲来、大規模な水害・土砂崩壊、これらのもとをなす気候変動、さらに人々の絆・縁を問うコロナ禍、そして深刻化する人口減高齢社会による「五大災難」へと様変わりし、私たちの前に立ちはだかっています。これらを乗り越え、道守活動が、地域にどのように寄与するかが問われています。そこで、本年の道づくし大会は、五大災難に立ち向かうこれからの道守活動について大いに語り合いたいと企画しました。

阿蘇を文字通りに読めば「原点に戻って蘇る」となり、また、「道は見つける、なければ作る」ともいわれます。これらを念頭に道守活動再起の課題をとられば次のとおりです。

まずは、五大困難の中で、道守活動をどのように工夫してきたかを振り返り、今後を探ることです。五大困難は、いずれも人の手に負えず、どうすればよいか途方にくれます。それでも、例えば火山や地震などを目の当たりにして私たちは慄き暮らすも、安全の確保に努め、火山の恵みを生かし、困難の壁に挑んでいます。越えられない壁はないと信じ、努力と工夫の道守活動を集大成し、どのように将来に繋ぐか、その道筋をつけることです。

一方で、持続可能な地域づくりに役立てる道守活動が考えられます。すなわち、道守活動の目的に、皆さんの貢献を地域や環境への

基調講演



災害と地域づくり
道守活動の貢献を考える
九州大学工学部土木工学科教授 塚原 健一

災害は非常時の対応、地域づくりは平常時の活動と一般的には捉えられています。しかし災害対応の活動と地域づくりの活動は別々のものなのでしょうか？平成28年に発生した熊本地震により大分自動車道は湯布院付近で大規模な被害を受けましたが、上下4車線が完成していたため迅速な復旧が可能となりました。一方で同年北九州市から宮崎市までの開通を祝った東九州自動車道は平成30年の西日本豪雨のため椎田南IC付近で発生した法面崩落により1ヶ月以上の不通を余儀なくされました。復旧に長期を要した一因として上下2車線の整備しかなされておらず復旧作業に困難を要したためです。

ご承知のとおり大分自動車道の上下4車線の整備は災害対策を目的としたものではなく交通網の整備による地域づくりを目的とした平常時の活動の成果ですが、それが災害の非常時にも機能することを示した良い例です。令和2年の球磨川流域における水害でも同様でした。豪雨により人吉盆地に通じるほぼ全ての一般国道が被災し通行止めとなるなか、九州自動車道が機能を維持し、被災地の復旧復興に大きな役割を果たしました。

「地域の交通の利便性が低い↓地域の活力が低下する↓低い地域力と低い交通利便性のためひとたび災害が起こると復旧復興が困難↓地域力がさらに低下する」これが災害と地域衰退の負のスパイラルです。これを「交通の利便性が高い↓地域が活性化する↓災害が起こっても地域力と交通網による他地域との繋がりで復旧復興が進む」というプラスのスパイラルに転換して行く必要があります。

基調講演では災害と地域づくりの関係を、強靱な交通網の整備を軸として、南海トラフ地震への備えと、オランダにおける人口20万人程度の小規模都市でも高い交通利便性により人口100万人規模の都市に負けない繁栄を果たしている事例を紹介しながら説明します。

取組に生かし、生涯の地、暮らしの地を持続可能とし、地域発展に寄与することです。17ゴールを網羅するSDGsをガイドに、地域の人々や諸組織と道守が一層協働し、様々な地域活動、生活や暮らしに役立つ道守活動のあり方を模索することです。

これらの課題を合わせると、結局は私達道守の活動の舞台が「道」であることに尽きます。つまり、道は三つの意味を持ちます。「人やモノが往来し、情報をつたえる道」、「人々が究める文明・文化の道」、「および「人々が集い暮らす地域の道」。かつて、それらを辿りながら、災害は「忘れたころやってくる」と戒められ、備えることを主に対処してきました。しかし、現代の五大災難は「忘れずにやってくる」であり、九州の諸地域がこぞって苦悩する異常な事態です。ならば、日頃から常にそれ乗り越えるため、視野を広げ、「三つの道」を探る道守のチャレンジと貢献が、今後に望まれ、工夫が求められています。

折しも紅葉が彩なす山の秋。苦難の復興九州を語らう傍ら、涅槃像なす阿蘇五岳の鼓動に耳を澄まし、彷彿と湧く温泉につかり、互いに勇気を養いましょう。

今回のみちづくしは地震から復興した「阿蘇」で、久しぶりに一同に会して開催します。スケジュールは次のとおりです。

●令和4年10月28日(金)・29日(土)

1日目

会場：阿蘇プラザホテル

交流会 13:30～17:00

- ・功労者表彰
- ・基調講演 平常時と災害時の地域の強靱性～交通ネットワークの重要性と事例～
- ・阿蘇からの報告
- ・フロアミーティング
- ・大会宣言

大庭照子ミニコンサート 17:10～17:50

郷土芸能 横堀岩戸神楽 17:55～18:15

交流集会 18:30～20:00

2日目 (詳細は、10ページに掲載)

現地体験学習

- ・やまなみ・滝室坂トンネルコース
- ・南阿蘇インフラコース

フロアミーティングでは、今回のみちづくし「阿蘇からのチャレンジ、復興九州」にちなみ、活力があり災害に強い九州を実現するために、私たち道守ができることはなにか、をテーマに議論を進めて行きます。

地域の人々が災害に際し特別な活動ができるはずはなく、日頃行っている活動の土台に立った行動しかできないと言うことは広く認識されています。私たちが日々行っている道守活動が災害に強い地域づくりにどのように貢献して行くかを議論したいと思います。

まず前半の第1ステージでは、これまでに発生した大規模災害に際し、災害時及び復興過程での道守活動事例を紹介してもらいます。道守熊本会議からはご自身の被災体験とボランティア活動の経験や、炊き出しの経験から得た訓練と経験の重要性を紹介してもらいます。道守大分会議からは被災地支援活動としての雑巾送付や募金活動を迅速に実施した経験を紹介してもらいます。道守佐賀会議からは建築士会と連携した水害後の被災状況確認の支援について紹介頂きます。

後半の第2ステージでは活力があり災害に強い九州を実現するためのこれからの道守の役割について議論します。地域の活性化や交流人口の増加など地域づくりの観点から道守福岡会議と道守長崎会議から活動を紹介してもらいます。次に災害と地域づくりの視点から災害への備えと道守活動について道守宮崎会議から、災害訓練と連携した町づくり活動について道守鹿児島会議から紹介頂きます。九州・沖縄道の駅駅長会議からは地域づくりや災害対応に関して道の駅の果たす役割についてお話を頂きます。

また、フロアミーティング全体をつうじて、地域づくり、道守活動に精通した方々をアドバイザーとしてお招きしコメント頂きます。

●プロフィール

塚原 健一 九州大学工学部土木工学科教授。昭和37(1962)年生まれ。福岡県立福岡高校から九州大学土木工学科に進み、1985年建設省(現国土交通省)に入省。在インドネシア日本大使館一等書記官、アジア開発銀行都市開発専門官、九州地方整備局河川調査官等、国内外の社会資本整備に携わる。2011年4月より九州大学大学院教授。

阿蘇市からの報告①



九州地方整備局
統括防災官
辻 芳樹

国土交通省が果たした役割

熊本地震で被災した南阿蘇村の阿蘇大橋地区では、大規模な斜面崩落とともに、国道57号、JR豊肥本線が被災し、阿蘇大橋は落橋するなど、道路、鉄道の大動脈が寸断されました。国土交通省では、阿蘇地域の道路などのインフラの復旧に取り組みしました。

俵山トンネルルートはトンネルの補修工事と合わせ、被災した橋梁を避けたミニバイパス整備や旧道を活用し応急復旧を完了。それまで迂回路となっていた1000級以上の山間部を通るグリーンロードから大幅な時間短縮、また冬季の積雪・凍結時の不安を解消し、震災後の12月にクリスマスプレゼントだと地元の方々に喜ばれました。

阿蘇長陽大橋を震災前の性能へと回復させ、崩壊斜面の対策を行い、平成29年8月の二学期の始業前に応急復旧が完了しました。

また、令和元年9月の俵山トンネルルート全線供用、令和2年10月には大規模崩落斜面の対策完了と国道57号現道部の復旧完了と段階的に復旧していきました。

令和3年3月に完成した新阿蘇大橋は、将来的な地震に備えた構造的な工夫を行い、24時間施工や最新工法を導入し、大幅な工期短縮を実現しました。震災から5年後、すべての阿蘇地

域への主要なアクセスルートが回復しました。令和4年の春、国土交通省が実施した熊本地震の復旧は全て完了しました。

阿蘇市からの報告②



阿蘇市経済部観光課
秦 美保子

災害からの地域復興の足取り

阿蘇市においては熊本地震(日28年発生)からの復興に当たっては厳しい一面がありました。平成24年7月未明に発生した九州北部豪雨での甚大な被害。市内中心を流れる一級河川黒川が至る所で氾濫。山腹崩壊箇所334カ所、死者21名。ここ内牧温泉も浸水被害に遭い当時は復旧支援補助金もほとんど無く、其々お金を工面して復旧工事に当たられました。ようやく復興が見えてきた矢先に熊本地震に遭い、築いたものが再度壊れる、激甚災害指定が2つ重なるという厳しさを味わいました。更に地震では多くの道路と鉄道を失い、内牧温泉街は地面がずれ温泉まで止まってしまい、どこから見ても絶望的でしたが、指揮を執る市長が絶え間ない努力をされ生活者優先の中、産業も大事と崩落していた阿蘇山上道路、水道施設復旧に早期着手、また20軒もの温泉掘削工事が補助金を活用し行う事ができました。工事が始まると事業者の皆さんに「希望」が生まれてきます。顔を上げると自然はいつも通り美しい。大事な財産は残っている。そんな心持で日々頑張つてこられたと思います。無我夢中の10年間。振り向くと、国土交通省のご尽力により自然災害に強い阿蘇谷に生まれ変わっています。国や県、また各ボランティアの方々への支援に心から感謝し、「教訓」「協働」を柱に更なる復興につなげていきたいと思います。

フロアミーティングでは、活力ある、災害に強い九州実現のために、道守活動がどのように貢献できるかを議論します。

まず、災害時や復興過程での道守活動事例を紹介し、後半ではこれからの道守や道の駅の果たす役割について意見交換します。

ファシリテーターは、基調講演者の塚原健一氏、また、地域づくりや道守活動に精通したお二人にコメントを頂きます。

コメンテータープロフィール



道守大分会議
代表世話人
桑野 和泉

平成16年の道守大分会議設立以来、代表世話人として活躍。「由布院玉の湯」代表取締役社長として旅館業のかたわら、観光・温泉を活かしたまちづくりの先駆者。ツーリズムおおいだ初代会長、由布院温泉観光協会会長などを歴任。2022年には日本観光振興協会の観光振興事業功労者を受賞。



道守くまもと会議
世話人
阿南 誠志

阿蘇郡高森町出身。「自然を愛する会」山仲間の会を設立し、「自然と共に生きる共生・共生」を基本理念に活動中。阪神淡路大震災時に現地で6000人分の炊き出し、東日本大震災・熊本地震など全国各地で起こる災害支援活動や、今年43回目を迎えた参勤交代九州横断徒歩の旅では青少年健全育成に尽力。



会長
神保 京子

甚大な災害に二度直面した
活動をつなぐ

私たちが住む阿蘇は、阿蘇五岳を中心とする世界最大級のカルデラ、広大な草原を有し、阿蘇特有の希少動植物が生息する豊富な自然や地域資源に恵まれています。

平成25年には「世界農業遺産」に、平成26年には「世界ジオパーク」に認定されました。

私たち「阿蘇の未知を考える女性の会」は、中九州横断道路や砂防事業の整備促進に関する取り組みを行っています。会の構成は、阿蘇市地域婦人会、食生活改善推進協議会、商工会女性部、JA女性部、法人会女性部などです。

平成24年の九州北部豪雨災害、また、平成28年の熊本地震における活動を報告します。

初めての大規模な活動は、九州北部豪雨災害でした。何から始めていいのか、手探り状態でしたが、偶然にもこの災害発生の日前に、日赤の災害訓練を受けていたことが、おおいに役に立ちました。いかに日頃の訓練が大事かと実感しています。

豪雨災害の翌日から8月31日までの51日間、延べ人数にして534名が、毎日公民館で献立を作り、4307食提供しました。避難所には会員自ら軽トラックを借り上げて配達しました。

③募金活動がきっかけの被災地ツアー

九州北部豪雨災害で被災地になった日田市長へ義援金を渡す際、「お金も嬉しいが、まちが疲弊している。住んでいる人たちを励まして欲しい」という切実な言葉を伺ったことがきっかけで、被災から1か月以内で現地ツアーを企画し、県内外から約30名が参加してくれました。被災された方にガイドをしていただき、壮絶な体験のお話、まだ生々しい現場を見てまわりました。今でもその話や状況は鮮明に残っています。

災害は、いつ来るかわかりません。日常時、道守活動を行っている仲間とのご縁は大切に、非常時には、お互いに役に立つ支援ができればと思います。

ドバイス」及び「住宅復旧相談対応」等を協議し、佐賀県安全住まいづくりサポートセンターのサポーター建築士を中心に現地での相談活動を開始しました。まず被災者自身がすみやかに復旧活動を行えるよう、各種メディアを通じて周知活動を行い作業の順番や復旧時に必要となる記録写真の重要性などを啓発しました。具体的には、①「片付けの前に被害状況の写真撮影」②「被害状況を各所に連絡する」③「ライフラインのチェック」④「片付けは家財からする」⑤「建物の基礎に水が溜まっていけないかの確認」⑥「室内を拭き取り乾燥させる」⑦「床や壁を剥がす際は最小限に」とまとめ伝えて行きました。特に災害の状況をスマホなどで撮影すること、罹災証明書や保険の申請時には必要となります。

道守佐賀の会員は、建設関係が多く災害時には第一線で



阿蘇市地域婦人会活動：九州北部豪雨

会員には、できる限り、避難所に足を運び、被災された方々とお話をするようお願いしました。被災者の方と直接お話をすることで心が通じあえると思ったからです。

そして4年後の平成28年に発生した「熊本地震」の際には、4月16日発生の「本震」の翌日から6月12日までの57日間連日、延人数611名

道守大分会議



蒲江道づくりを考える
女性の会
高橋 壽恵

道守活動を通じた交流から
被災地を思う温かい支援活動

災害の現場で即効性を発揮するのは、医療・看護・福祉などの直接的に命を支える専門分野が必要で、大地震・大津波・水害といった災害では、建物やインフラ被害が予測されるので、建築・土木などの分野が直ちに求められます。

そんな中、専門性をもたない者にとって「被災地の役に立ちたい」「復興を応援したい」という思いは、どんなことで関われるのかわから

益城町防災連絡協議会



会長
井川 寿範

熊本地震その後の取組みと
チューリップで繋ぐ絆

平成28年、益城町に甚大な被害をもたらした熊本地震。前震、本震2回の揺れで未曾有の被害を受けました。

当時、私は益城町総合体育館管理人として勤務していました。前震の日、勤務を終え夕食後自宅できつろいでいた時、ドーンと突き上げるような揺れに襲われ、床に這いつくばりました。ギシギシ、ガラガラ、ガッシャーン。電気が消えた真つ暗な家の中で、響く音と広がる土の臭い。家族の安否を確認し、携帯電話のライトを照らすと、家具などが倒れ足の踏み場がない状況でした。非常用品をリュックに入れ、登山靴を履き、徒歩で約1キロ離れた体育館へ向かいました。体育館は停電し、非常用発電機も使用できない状態。水道管も破裂し余震が続く中、避難者の受け入れを始めました。

その後すぐ、自然を愛する会のメンバーが食料品、テント、寝袋等を持って私の住む赤井地区に駆け付けてくださいました。支援してほしいと相談すると、町の惨状を見た阿南会長からその場で快諾いただき、早速、私の自宅に現地連絡所として活動開始。要望が多かった被災家

が、食事5万3059食、おにぎり3万6300個を提供、支援物資配布5万2809件を朝6時から夜8時まで実施しました。中には、被災された方も大勢いらっしゃいましたが、熱心にご参加下さいました。

活動はボランティアです。強制的にお願いはできません。しかし、この2回の災害支援活動の中で、一度も人手が足りないという場面には遭遇しませんでした。

九州北部豪雨災害時に、日赤の職員から「記録を残しておいて下さい。」という言葉をしつかりと実行し、熊本地震後は、毎日、食事の写真を記録し、その経験をつなぐ資料を残すことができました。

ず、行動を起こせないことに直面します。

緊急かつ重要な対応は行政や専門の方におまかせし、道守らしい災害援助を行った3つの事例をご紹介します。

①face to faceの縁

竹田市が集中豪雨により河川氾濫した際、「蒲江道づくりを考える女性の会」は、被災地に雑巾680枚と「がんばろう竹田」のステッカーを貼った。蒲江名物のあめ玉。を送付し、被災地の一日も早い復興をお祈りしました。道守活動を通じた交流から被災地を思う温かい支援活動となりました。

②道の駅のご協力のもと募金活動

平成28年から3つの輪として、道の駅を基点に募金活動を開始しようとした矢先、「熊本地震」が発生。当初予定していたコンセプトを変更し、道守×道の駅×風景街道で災害義援募金を開始しました。

道は浸水すると通れませんが、道守が被災した人々へ何をすべきかを、伝えることはできます。「伝えることの大切さ」を道守活動の輪のように広げていく事が大切だと思います。

き、本当にありがたかったです。



赤井地区の復旧作業も少し落ち着いてきた。同年秋、生花店で作る肥後花市場花商組合からチューリップ球根植栽の話があり、11月1日、国道443号沿いの私の畑に地域住民で八千球植え付けました。翌年の春、冬の寒さに耐え、赤白黄色と色とりどりに咲いた時の感激は、今でも忘れることはありません。

2年目は二万球植え付け、平成30年4月、復旧した地区公民館の落成式とチューリップ祭りを開催。3年目、4年目と年々規模を拡大し、テレビや新聞にも取り上げられ、国道が渋滞するほど多くの見物客が訪れました。5年目には、令和2年7月豪雨の被災地に恩返しでチューリップを咲かせようと相談し、人吉市と相良村に八千球、6年目となる昨年は球磨村に一万球を地元住民、赤井区住民、自然を愛する会会員が協力して植え付けました。こうして支え合い励まし合い、被災地を結ぶ絆ができました。

（株）セルバ自然を愛する会と地域防災力向上の為、益城町と災害時における物資協力に関する協定を締結、私は益城町防災士連絡協議会会長として防災減災に尽力しております。



代表世話人
三原 ユキ江

道守佐賀会議

伝えることの大切さ
道守でできること

2016年の熊本県で起きた震度7の大地震や2019年の九州豪雨等、相次ぐ大規模災害が発生している九州。「線状降水帯」の言葉すら当たりまえのように使われるようになってきている日本の気候。

2016年の熊本大震災では、応急危険度判定や神社仏閣の調査に携わったことを思い出します。2019年には、佐賀県でも武雄市をはじめ各市町に「記録的短時間大雨情報」や「大雨特別警報」が8月28日に発表され線状降水帯による内水氾濫で大水害が発生しました。

翌日の8月29日に佐賀県建築士会では、危機管理対策部会のメンバーを中心に緊急会議を実施、「集中豪雨冠水住宅の復旧作業に対するア

道守長崎会議



日本防災士会長崎県支部
渋谷 香奈

「防災・減災」にも繋がる地域づくりへ

熊本地震が発災した2016年。当時、私は佐世保市初の道の駅のオープン準備に追われ、東日本大震災後に防災士資格を取得したものの、残念ながら現地での活動はできませんでした。被災地へ赴くことだけが防災士の役目ではない、と思い直し、私にもできることから始めよう、というきっかけを与えてくれたのがこの熊本地震です。

長崎県は、雲仙・普賢岳の噴火から30年が過ぎ、今年は諫早大水害から65年、長崎水害から40年を迎える節目の年でもあります。日頃の備えを声高に叫んでも、なかなか伝わっていないのが現状です。「防災・減災」が特別なことと捉えられ、どこか「他人事」で「我が家は大丈夫」というこれまでの経験や先入観で判断していることが原因のひとつです。

そんな中、地域住民の皆さん、道守長崎会議やながさきサンセットロードのメンバーとあらゆる活動を行っている中で、「防災・減災」にも繋がる『地域づくり』へのヒントが少しずつ見えてきました。

一気呵成に地域の防災意識を強めることは、もちろんできません。しかし、大雨時には危険

水位まで増水する相浦川の草刈りや飯盛神社での夏祭り、子どもたちや大学生とのたけのこ掘りに門松づくりを通じて、数年をかけて普段は顔を合わせる事がなかった地域の人たちとも挨拶を交わし、世間話をし、一緒に汗を流す。そういう「顔の見える関係」を作っている仲間や地域の人になれば、少しずつでも大切なことを伝えていくことはできるのではないかと感じ始めていました。

「防災力を高めよう」と立派なスローガンを掲げなくても、地域活動を通して、つながりは密接になり、防災・減災力は徐々に広がり高まっているように感じます。



日常の暮らしである「平時」と災害などに見舞われる「非常時」に一線を引くのではなく、かしこまらず緩やかに、日常と非日常が連続していることを意識した考え方を私は「グラデーション防災」と呼んでいます。まさに今、日頃から防災・減災の視点を持ち、一石二

道守かごしま会議



代表世話人
田島 直美

災害訓練で連携のまちづくり

鹿児島県は全国の中でも土砂災害が多い地域のひとつであると言われ、毎年のように多くの災害が発生しております。特に、平成18年7月22日観測史上最大の洪水となった北部豪雨災害により甚大な被害があり、この水害を機会に市民の防災意識が高まりました。薩摩川内市が中心となり開催されている防災訓練では、川内川河川敷にて様々な活動団体・コミュニティ・学校や自衛隊、行政等で、私達も炊出し訓練やボランティアセンターの模擬訓練では登録受付など一連の流れを体験しました。もしもの災害に備えての訓練は、繰り返し行うこと、そして、各種団体と連携して被災地支援することが重要になります。

また、「自助・共助・公助」を基本に防災対策の重要性を理解してもらうために、親子でのまち歩きを企画し災害危険箇所や避難場所を点検し防災マップの作成を行いました。自治会では地域を回り災害時に避難支援が必要な高齢者や障害者の把握を行ない、支援者の担当も決めて住民同士が声を掛け合って避難する仕組みも

鳥にも三鳥にもしていくスキルが求められているのではないのでしょうか。



作りました。このように、市民活動が盛んになり、自助と公助を育みながらその力を十分に発揮するためには、担っていく人材の育成がとりわけ重要になります。私達は啓発、リーダー養成、組織運営、運営能力など、活動の発展段階に応じて、必要な力をつけることができる人材の育成のための講座を開催しました。異なった活動団体との出会いや幅広い情報交流が図られる道守や風景街道のネットワークは、様々な団体、行政、企業などが、連携・交流のプラットフォームになり、災害・緊急時におけるボランティアをはじめとする市民の支援活動についても効果的に対応でき重要な役割を担えると思います。また、ハード面においても避難道の設置要望や危険箇所の情報提供等をして参りました。

道守みやざき会議



事務局長
石田 達也

道守が災害時に地域で果たす役割とは？

毎年のように発災する大規模自然災害に対し、宮崎県では県と県社協それにNPOの中間支援団体等が協定を結び、大規模発災時にどんな協力体制が取れるかという内容で定期的に協議を行っています。また宮崎市では、市と市社協、これに災害時ボランティアコーディネーター（略称・SVC）と宮崎市民活動センターの4者で協定を結び発災時のボランティア・センターの立ち上げマニュアルを整備し、年に2回ボランティアセンターの運営のシミュレーションを行う訓練をこの数年やっています。

発災時の助け合いは被害の規模によっても取り組み方は異なりますが、小規模の場合は地域内での相互扶助によって成り立ちます。2021



年度の豪雨災害では床上浸水の被害が出た地域は、その周辺ブラサの地域住民の尽力により数日に対応できました。しかしながら現在予想されている南海トラフ級の大地震が発災したら、地域の相互扶助だけではどうにもならないこと

道守ふくおか会議



道守ネットうきは代表
家永 重信

三つの輪の連携を進めよう

平成十八年より二代目会長の後を受け継ぎ、今日まで十六年間「千年コスモス代表」として動めているところです。

平成二十七年道守うきはネットワークが発足、今日に至っていますが、その間、実行委員の皆さんをはじめ地域住民の方々や行政の担当課の御協力により運営活動が出来ました。

また、福岡国道事務所や道守ふくおか会議の皆様方たいへん御指導いただいています。これからも道を愛し、道を守り、楽しく道守活動が続けたいと思っています。

清掃活動を行う人や植栽活動を行い、いろんな場所、いろんな道路で、道守活動が進められてほしいものです。

道の駅阿蘇



駅長
下城 卓也

県境を超えて繋がる活動へ

「道守」、「風景街道」、「道の駅」という3つの団体同士の連携強化を図る目的で2016年より大分県で「3つの輪」活動が始まり、大分県だけにとどまらず県境を超えたコミュニティと繋がる活動へと成長してきました。

そして2021年には、道守くまもと会議世



今後道守活動だけでなく、風景街道や道の駅、道守の三者で進める「三つの輪」の連携を押し進めるべきではないでしょうか。うきは市においても風景街道、道の駅、道守の三者が活動し、中でも「道の駅うきは」は九州管内でも大きな業績を挙げているようです。

また、来年九月頃には国道210号線沿いの道の駅うきはの隣に大型ホテルチェーンマリ

オットホテルがオープン予定です。宿泊を基本に食事については、地元の食材を活用して自前で料理をしたり、地域のお店で食事を楽しむように考えているようです。

ホテルや道の駅に、こられるお客様が、コスモスや菜の花が国道210号バイパスに咲きほこるうきはの地を楽しまれることを願っています。



話人の阿南さんを中心として「3つの輪」から派生した、「やまなみハイウェイつながるひろがるプロジェクト」が結成されました。このプロジェクトは、3つの輪活動の推進や修景活動、Eーモビリティの普及等を目的としています。参加者は三つの輪以外にも、やまなみハイウェイや阿蘇くじゅう国立公園で活動する人たちが含まれています。例えば自然を愛する登山ファンや、サイクリスト、自然ガイド、行政関係者等です。

活動のひとつが大分と熊本を結ぶやまなみハイウェイでの清掃活動です。2021年10月には100名以上が参加し、瀬の本レストハウスと長者原を中心に実施されました。2022年10月15日もこのやまなみハイウェイ清掃活動を実施する予定となっています。今回は九州地域づくり協会をはじめ、大分銀行、肥後銀行、プロサイクルチームのスパークル大分レーシングチーム等多くの組織・企業の方にもご協力いただいています。

道守というコミュニティのただけで活動するのではなく、風景街道や道の駅との連携、さらには全く別のコミュニティと繋がっていくことで活動がより楽しく、より有意義になっていくのではないのでしょうか。

ぜひ一步を踏み出してみてください。もし皆さんの中で道の駅との繋がりにご興味ある方がいらっしゃれば、ぜひ私にお声掛けください。何ができるかお互いに考えてみたいと思っています。

① やまなみ・滝室坂トンネルコース

季節を問わず多くの観光客が訪れる「やまなみハイウェイ」の魅力を南阿蘇在住の道守「阿南さん」に紹介していただきます。

阿蘇路の難所、滝室坂を貫通する滝室坂トンネル工事現場では最先端の切り刃を見て、30万年前から9万年前の4回に

亘る阿蘇の噴火でできた地層を見学します。

江戸時代から昭和初期まで宿場町として栄えた坂梨宿を訪ねます。伊能忠敬、高山彦九郎、坂本龍馬、勝海舟も歩いた道を散策してみましよう。

- 8:30 阿蘇プラザホテル出発
- 9:10 やまなみハイウェイ・レストハウス到着後 周辺散策
- 10:00 出発 滝室坂トンネル工事現場へ
- 10:40 トンネル内見学
- 11:40 出発 坂梨宿へ
- 11:45 坂梨宿散策
- 12:15 道の駅「阿蘇」にて解散 阿蘇プラザホテルへ



滝室坂トンネル切り刃



やまなみハイウェイ



道の駅阿蘇

- 8:30 阿蘇プラザホテル出発
- 8:45 道の駅「阿蘇」にて散策
- 9:05 出発 阿蘇火山博物館へ
- 10:00 阿蘇火山博物館見学
- 10:25 出発 震災遺構「旧東海大学阿蘇校舎1号館」と「地表地震断層」を見学
- 11:00 出発 「数鹿流崩」と「阿蘇大橋」へ
- 11:30 「数鹿流崩」と「阿蘇大橋」見学
- 11:35 立野ダム見学
- 12:05 出発 大津駅へ 阿蘇プラザホテルへ

道の駅「阿蘇」、阿蘇駅に隣接し、阿蘇の自然と風情を共にした趣のある道の駅です。

阿蘇火山博物館では、阿蘇山の火口の映像、阿蘇誕生のドラマ、170度のマルチスクリーンなどを楽しみながら、火山の知識を深めることができます。

熊本地震震災ミュージアムの中の一つである「旧東海大学阿蘇校舎1号館」と「地表地震断層」を見学します。

「数鹿流崩」は大規模な山腹崩壊で、

② 南阿蘇インフラ復興コース

工事は無人で行われ、国道57号から見上げる景色は圧巻です。「阿蘇大橋」は崩落した橋の下流に新設されました。

立野ダムは、白川沿川の洪水被害を防ぐための治水専用の流水型ダム。平常時は川底近くの穴から水が流れ、大雨時に穴を流れきれない水がダムに溜まる仕組みで、完成間近の現場です。



旧東海大学阿蘇校舎1号館



立野ダム



「数鹿流崩」と「阿蘇大橋」

私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。

地域からの報告 佐賀

道守佐賀会議

コロナ禍に想うこと

「コロナ禍でできること」
こんなことを考えて間もなく3年。新型コロナウイルスの幾層もの変異の脅威に晒されている状況が続いています。令和3年度もコロナの影響により思うような活動ができなかったため、前年度に引き続きオリジナル品の製作をするようになりました。

今回のコンセプトは「withコロナ」



道守ロゴマーク入りのマスク

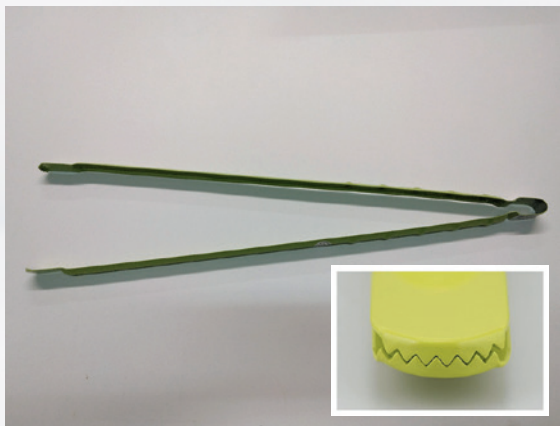
「ナ」とし、マスク、作業手袋、ゴミ拾いトンクの3つを製作・購入することにしました。マスクは前年度好評だったこともあり、在庫が少なくなっていたため追加発注。作業手袋は、鋭利なゴミで怪我しないよう手のひら部分がゴムコーティングされたものに道守ロゴマークを付けました。ゴミ拾いトンクは、先端にギザギザ加工が施されており、空き缶からタバコの吸い殻までしっかりと掴むことができる物をチョイス。

新型コロナウイルス感染防止のカギとなるのは、やはり「接触」です。共同して使うのではなく、パーソナルグッズを配布することで人との直接的な接触を減らし、結果としてコロナ禍での活動においても感染防止に一定の効果が見込めます。

一般参加の方々が道守マスクと道守手袋を着用し、ゴミ拾いトンクを使って清掃活動に精を出す。そんな様子を来年度の道守通信で紹介できたらと思います。



作業用手袋



作業用トンク

ます。

しかしコロナ禍で想うことは、「コロナ禍でできること」なんて考えなくても良い、マスクで笑顔が隠れず笑い声が彼方此方から聞こえてきそうな様子を紹介したい、それが本当の想いです。

(前事務局 木村剛)

佐賀

葉隠会道守部会(佐賀市)

道路に愛着をもち道路を守ることで快適に利用して頂く

私たちは、九地整佐賀国道事務所の道路関係OBで組織された葉隠会道守部会です。平成22年より活動しています。活動の際には職員も多数参加されて、ご協力して頂いています。会員は25名いますが、定年後加入となり若手でも60歳を過ぎています。最近では年々高齢化となり、コロナ、事故等十分注意しながら活動しています。主な活動内容としては、佐国管内の国道清掃、除草の美化活動、道守佐賀会議のイベント等に参加しています。会員は、道路に愛着があり道路を守り、快適に道路利用者が利用できるようにしたいとの心意気で頑張っています。特に国管理の国道の維持管理費が大幅に削減されていることを身にかけて感じ活動しています。今後とも事故等が無いように和気あいあいと親睦を深めながら活動しますので宜しくお願いします。私自身「道守九州会議」の発足当時より関係していましたので、継続していることに感謝するとともに九州としての心意気を感じています。

(会長 後藤清正)



R4.6.22 国道美化活動状況(除草等)

福岡



道守おおむたネットワーク（大牟田市）

待ち望んだ大牟田市玄関口での道守活動を開始!!

道守おおむたネットワークは、大牟田の街を花いっぱいにと、平成25年度より道の清掃、植栽帯（花壇）の除草や花植え活動を実施しており、その中でも、学校、企業、団体、個人など約300名を超える多くの参加者と地域一帯となって活動する「おおむた花街道プロジェクト」は、自分たちの手で育てたノースポールを国道208号沿線に花植えし、毎年、春頃には鮮やかな花で大牟田市を訪れた方をお迎えしています。

今年度からは大牟田市の玄関口でもあります諏訪公園付近で新たな活動をしたという長年の夢が実現し、有明海沿岸道路の大牟田インター道路高架下を活用した活動を8月末に約100名の参加者のもと秋に鑑賞できるコスモスの種まき活動を実施しました。

今後大牟田市民の「おおむた愛」の意識醸成に繋がるような活動を継続、拡大していきたいと思っています。（代表 三原くみ子）



作業風景



有明海沿岸道路高架下花植活動集合写真

熊本



南小国町ボランティア行動隊（南小国町）

県境を越えて岡城石垣の草刈り

南小国町ボランティア行動隊は、南小国町を活動拠点とし、町内約10kmに渡り、道路環境や河川の保全美化活動を南小国町社会福祉協議会と連携して行っている。

リーダーの高村宗二氏を中心にベテランメンバーで、10kmの区間の清掃活動を年間12回実施し、町内通学路の草刈りを毎月4回実施する事で、子供たちが安全に通学できるように地域に貢献している。

ここ数年は、県境を越えて竹田市岡城石垣の草刈りを実施し、「やまなみハイウェイ美化運動」長者原から瀬の本までの20kmに渡るゴミ拾いにも参加し、大分の皆さんとも交流するようになった。

また、南小国町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しており、道路を中心に美化活動を実施することで「国道212号ゴミゼロ作戦」を推進し、名実ともに美しい南小国町を目指したいと考えている。

（道守くまもと会議 世話人 阿南誠志）



やまなみハイウェイのゴミ拾い



岡城石垣の草刈り

長崎



ロードスターズ（長崎市）

秋の大祭「長崎くんち」に向けて

私たちロードスターズは平成16年4月より長崎市長町（長崎市役所前）から馬町（諏訪神社）の鳥居前の一般国道34号線0.7kmの両歩道の清掃活動を行っています。活動を重ねていくうち近隣の人々や通行人の方からも「苦勞様です」と声を掛けられるようになりました。

また、毎年行われる諏訪神社の秋の大祭「長崎くんち」（10月7日～10月9日）前には、神社入口の歩道の花壇に花の植え付けを行っています。

花壇の際には、花壇を耕し、施肥して土づくりから行うため、参加者全員で花植えの大変さを知りたい機会となります。

長崎くんち前一週間は朝・夕の灌水も欠かさず行っています。時には通るかから子供たちから手伝わせて下さいと声を掛けられるなど、地域の人達と触れ合う機会を持った事もあります。

今年度は長年にわたる清掃美化活動の功績に対して『令和4年度国土交通省大臣表彰』を受けることが出来ました。

これを励みに地域の皆様とも良好な関係を育みつつ、また、熱中症対策など安全管理に気を付けながら、この活動を継続していこうとの思いに至りました。

（代表 川嶋桂太）



清掃活動



花植え

大分



日本文理大学附属高等学校（佐伯市）

地域のために率先して活動に参加社会にでても環境保全活動の意識を持てる人材に。

日本文理大学附属高校は大分県佐伯市にある生徒数約500名の私立総合高校です。

本校の道守活動は、海に親しむ学校行事「汐風祭」での海岸清掃活動、地域の津波避難場所「のうか山」の避難道清掃やアジサイ花植え活動、防災キャンプ体験、地域のゴミ拾い活動「チャレンジみらい大会」実施、環境学習イベント「キャンドルナイト」など多岐にわたります。

2018年国土交通省「道路ふれあい月間」推進標語では、「成長の足跡残して歩く道」が最優秀賞に選ばれました。

現在は、コロナで活動が制限されているため、なかなか活動が出来ませんが、本校横の道路沿いにプランタ約300で花を育て、道を通る人たちに覚えてもらう活動を行っています。当初は本校卒業生ラグビー日本代表「グジウオン」選手を応援するために始まった活動です。現在は毎年、佐伯市の「花のあるまちづくり事業」で花苗支給を受け、夏はマリゴールド、冬はノースポールを育てています。平日は担当クラス生徒、土日は部活生が中心となり、花の世話を行っています。

今年は猛暑で水やり等が大変でしたが、さいきうつくし作戦実行委員会より「水やりリヤカー」を頂き、活用しています。これらの活動を通じて、環境保全活動の意義を学び、社会にでても環境保全活動の意識を持って生活していきたいです。（ボランティア委員会／大分県「うつくし隊」）



「花のあるまちづくり事業」の一環で学校の周りを花いっぱい！

宮崎



株式会社ジャストエンジニアリング（宮崎市）

市民に知ってもらえる「道守活動」を

株式会社ジャストエンジニアリングは、宮崎市に本社を構え、国土交通省・防衛省などの官公庁の発注者支援業務（技術支援）を主な仕事としている、建設コンサルタントです。

「道守活動」の初めの頃は役職者だけで会社の近くにある「道の駅高岡」の駐車場のゴミ拾いを行っていましたが、最近では、年に一度社員全員が集まる「社内研修会」と兼ねて、宮崎市内中心部の一般国道一〇号の歩道を1時間程度でゴミ拾いなどの清掃活動を実施しております。市街地での活動は市民の方にアピールになってよいのですが、歩道の通行者への安全配慮や作業員の事故防止など配慮が必要で苦慮するところがあります。

今年は感染の再拡大で、九州各地で頑張ってくれている社員を集める事ができるかが心配です。でも、活動は市内にいる社員だけでも継続していきます。（道守みやざき会議 事務局長 石田達也）



道守ののぼりを立てて活動中



清掃後の集合写真

鹿児島



株式会社大進（鹿児島市）

継続した活動でより良い街づくりを目指して

株式会社大進は、総合建設コンサルタントとして地域の方々が安心して住める街づくりを目指し、調査・測量・設計を行っている会社です。

国の「ボランティア・サポート・プログラム」、「この星を未来につなごう」という道守活動に共感として、平成18年度から鹿児島県本社のある鹿児島市新照院町から草牟田町にかけて、国道3号線歩道のゴミ拾いを月に1度行っています。この沿線は人々の通勤・通学路であり、利用者の多い道路となっています。

清掃活動によって道路利用者の生活を快適にするだけでなく、活動を行う中で、社員同士や普段お会いすることのない地域の方々とのコミュニケーションの場にもなっています。先日の活動中に地域の方から「いつもありがとうね」と直接お声をかけていただき、非常に嬉しかったです。

今後も地域のインフラ整備を考える企業活動として清掃活動を継続し、より良い街づくりを目指していきたいと思っています。（総務営業課 鈴木拓規）



鹿児島県本社に勤務している職員で毎月実施しております



国道3号線の清掃活動の様子

九州風景街道 令和4年度ブロック意見交換会 更なる発展に向けて

コロナ禍を乗り越えて 3年ぶりの対面形式による開催

九州風景街道は、地域に暮らす人が主体となり、行政と手をつなぎ、『美しい景観づくり』『活力ある地域づくり』『観光振興』を目指す取り組みであり、平成19年の発足から今まで歩み続けてきた。

今年度は3年ぶりに会場への参加人数の制限やWEB等を併用しながら、対面形式によるブロック意見交

換会を全4ブロック（福岡・佐賀ブロック、長崎・佐賀ブロック、熊本・大分ブロック、鹿児島・宮崎ブロック）で開催した。

意見交換会の参加者は、これまでともに歩んできた他のルートの方々と久々の再会となり、更なる九州風景街道の発展に向けた活発な意見交換を行った。



会議の様子(鹿児島・宮崎ブロック)



会議の様子(長崎・佐賀ブロック)

コロナに負けず 地域の魅力を探求し続けるルート

ブロック意見交換会では、『令和3年度の活動報告』『令和4年度の取組方針』『ルートの現在の取組状況』について、議論を行った。令和3年度の活動は大きく分けて『情報発信』『修景活動』『屋外イベント』の3つに分類された。

『情報発信』では、PR動画の自作・公開や風景街道マップの作成、学生を対象とした担い手の育成活動について紹介があった。『修景活動』では、他ルートとの協働による清掃活動や景観を阻害する暖竹等の伐採

があげられ、更なる景観の美化活動について紹介があった。『屋外イベント』では、十分な感染対策を行ったうえで、街道のウォーキングイベントや伝統漁法の体験イベントの実施など、地域に根ざした活動の紹介もあった。

意見交換会では、コロナ禍においても様々な工夫や対策により地域の魅力向上に向けた活動が報告され、その活動内容をルート間で共有していくことで、九州風景街道の更なる発展につなげていくことが確認された。



Youtubeへ投稿したルートの紹介動画



修景活動の一環として実施した暖竹の伐採

SNSの活用 ～九州風景街道の更なる発展へ向けて

九州風景街道の課題の一つとして認知度が低いことがあげられる。

近年、各ルートの広報手段としてSNSが活用されており、九州風景街道でも令和2年度からInstagramのアカウントを開設している。令和4年度から『九州の魅力の風景』『各ルートの活動』『各ルートの周遊マップの紹介』等の情報発信を行うことにより、情報の受け手側を意識した内容の発信に取り組んでいる。

Instagram等のSNSの活用は、地域の活動を発信することで、それを見た若

年層の活動への参加、さらには担い手確保につながり、活動を継続的にやっていく上で効果的であると考えている。実際に九州風景街道のInstagramの若年層のフォロワー数も増加しており、興味を持って連絡してくれる方や自治体も出てきており、認知度向上につながることが期待される。

なお、『九州の魅力の風景』の発信は、参加型の手法をとっており、一般の方から募集した風景の紹介を行っている。

参加方法は、①『九州風景街道のアカウ

ントをフォロー』②『#九州風景街道をタグ付けして投稿』投稿された写真の一部を投稿者とともに紹介するという流れとしている。一方的に情報発信するのではなく参加型とすることで受け手側にまず興味を持ってもらい、投稿者をフォロワーにつなげている。

このようにInstagramを通じて、九州風景街道の活動を更に幅広く情報発信していくこととしている。



九州風景街道のQRコード



紹介した九重連山の写真



道守と連携して実施した活動の紹介



Instagramのアカウントページ

A paved road with a yellow center line and white edge lines stretches into the distance, flanked by a dense forest of tall, slender trees. The road is bordered by a rustic wooden fence on the right side. Sunlight filters through the canopy, creating dappled shadows on the road surface. The trees have thick, dark trunks and green foliage, creating a tunnel-like effect.



Dr. Tetsuya Kikuchi is a middle-aged man with dark hair, wearing glasses and a light-colored shirt. He is looking directly at the camera with a neutral expression.

～道守を支援いただいている賛助会員の皆様(団体・企業)～

※順不同

一般社団法人 九州地域づくり協会	九州国道協会	一般社団法人 日本道路建設業協会 九州支部
一般社団法人 プレストレスト・コンクリート建設業協会 九州支部	一般社団法人 大分県建設業協会	一般社団法人 佐賀県建設業協会
一般社団法人 鹿児島県建設業協会	一般社団法人 熊本県建設業協会	一般社団法人 長崎県建設業協会
一般社団法人 福岡県建設業協会	一般社団法人 宮崎県建設業協会	大分県道路利用者会議
株式会社大林組 九州支店	鹿児島県道路利用者協議会	鹿島建設株式会社 九州支店
九州電力株式会社	熊本県道路利用者協会	建設サービス株式会社
佐賀県道路愛護協会	清水建設株式会社 九州支店	大成建設株式会社 九州支店
長崎県道路協会	長幸建設株式会社	西日本高速道路株式会社 九州支店
日新興業株式会社	福岡北九州高速道路公社	福岡県道路協会
福岡市道路利用者会議	宮崎県道路利用者協議会	株式会社九州建設マネジメントセンター
九州技術支援協議会	株式会社熊谷組 九州支店	西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
西日本高速道路メンテナンス九州株式会社	阪神高速技術株式会社	NTT インフラネット株式会社 福岡支店
小田開発工業株式会社	サンコーコンサルタント株式会社 九州支店	日本振興株式会社 九州支店
アイレック技建株式会社 九州支店	朝日開発コンサルタンツ株式会社	旭建設株式会社
朝日工業株式会社	朝日テクノ株式会社	株式会社アジア技術コンサルタンツ
株式会社アップス	株式会社安藤・間 九州支店	いであ株式会社 九州支店
鳥城塗装工業株式会社	株式会社エイト日本技術開発 九州支店	株式会社エスイー 九州支店
株式会社エンジニアプランニング	扇精光コンサルタンツ株式会社	大分瓦斯株式会社
大分県建設業協会 大分支部	大分県道路舗装協会	大分交通株式会社
株式会社大島造船所 九州営業所	株式会社岡崎組 勝盛会	株式会社荻島組
株式会社オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	株式会社ガイアート 九州支店	鹿児島土木設計株式会社
株式会社柏木興産	株式会社片平新日本技研 福岡支店	上内電気株式会社
川田建設株式会社 九州支店	株式会社カンドー 九州支店	九建設株式会社
株式会社九州開発エンジニアリング	九州環境管理株式会社	九州建設コンサルタント株式会社
九州地区道路利用者会議	九州みちの会	協同エンジニアリング株式会社
株式会社橋梁コンサルタント 西日本支社	一般財団法人 橋梁調査会	株式会社建設環境研究所 九州支店
株式会社建設技術研究所 九州支店	株式会社建設技術コンサルタンツ	株式会社建設技術センター
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 九州支部	株式会社鴻池組 九州支店	株式会社国土開発コンサルタント
株式会社コバルト技建	株式会社駒井ハルテック 九州営業所	西部ガス株式会社
一般社団法人 佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会	株式会社サタコンサルタンツ	株式会社島田設計コンサルタント
株式会社ジャストエンジニアリング	新成建設株式会社	株式会社新日本技術コンサルタント
株式会社親和コンサルタント	株式会社末宗組	株式会社西部技建コンサルタント
株式会社センコー企画	株式会社総合技術コンサルタント 九州支店	株式会社そよかぜ館(「道の駅大和」)
大日本コンサルタント株式会社 九州支店	大福コンサルタント株式会社	太陽技術コンサルタント株式会社
株式会社高山組	瀧上工業株式会社	多久市そうじの会(多久の未来を創る会)
宅島建設株式会社	谷川建設工業株式会社	株式会社玉の湯
株式会社地域科学研究所	中央コンサルタンツ株式会社 福岡支店	中央復建コンサルタンツ株式会社
株式会社長大 福岡支店	株式会社長大テック 福岡支店	通信土木コンサルタント株式会社 九州支店
株式会社東亜コンサルタント	東急建設株式会社 九州支店	株式会社東京建設コンサルタント 九州支店
株式会社東豊開発コンサルタント	東洋技術株式会社	戸田建設株式会社 九州支店
株式会社友岡組	株式会社友岡建設	株式会社名村造船所 福岡営業所
南生建設株式会社	株式会社西海建設	株式会社西九州道路
株式会社西田技術開発コンサルタント	西日本技術開発株式会社	西日本建技株式会社
西日本コンサルタント株式会社	西日本コントラクト株式会社	株式会社日建コンサルタント
日鉄鉱コンサルタント株式会社 福岡支店	日本乾溜工業株式会社	日本軌道工業株式会社
日本工営株式会社 福岡支店	日本地研株式会社	株式会社野村建設
葉陽会道守部会	株式会社萩原技研	パンフィックコンサルタンツ株式会社 九州支店
株式会社ピーエス三菱	株式会社東九州コンサルタント	株式会社日高本店
福地建設株式会社	株式会社福山コンサルタント	株式会社富士設計
株式会社ぶげん街づくり会社(「道の駅」豊前おこしけ)	復建調査設計株式会社 九州支店	前田建設工業株式会社 九州支店
松尾建設株式会社	松本技術コンサルタント株式会社	株式会社丸福建設
株式会社水野建設コンサルタント	みちを考える会	宮崎空港ビル株式会社
株式会社宮崎産業開発	宮地エンジニアリング株式会社 福岡営業所	村本建設株式会社 九州支店
八千代エンジニアリング株式会社 九州支店	株式会社ヤマウ	株式会社ヤマックス
有限会社測量企画センター	有限会社道の駅みえ	株式会社横河ブリッジ 福岡営業所
利光建設工業株式会社	龍南建設株式会社	株式会社安部日鋼工業 九州支店
コーアツ工業株式会社	西部ガス株式会社	昭和コンクリート工業株式会社 九州支店
株式会社富士ピー・エス	NTT インフラネット株式会社 熊本支店	NTT インフラネット株式会社 鹿児島支店

個人会員67名

「道守九州会議」事務局

発行 「道守九州会議」

広報誌「道守通信」秋号
令和4年10月発行

■道守支援室(九州地方整備局道路管理課内)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■(一社)九州建設技術管理協会内
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/>

e-mail michi-kima@kyugikyo.or.jp

